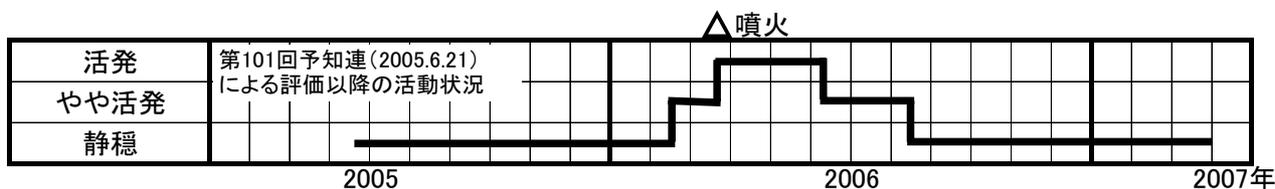


雌阿寒岳

○ 火山活動評価：静穏な状況

振幅の小さな火山性地震が一時的にやや増加しましたが、その他の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏な状況です。



○ 概況

・ 噴煙活動 (図 2、図 4)

赤沼 06 火口群や北西斜面 06 噴気孔列の噴煙活動は静穏な状況で推移しており、噴煙の高さは火口縁上おおむね 100~200m で推移しました。また、ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙の高さは、火口縁上 100m 以下で推移し、特に変化はありませんでした。

1 日に北海道開発局の協力を得て実施した上空からの観測では、雲のためポンマチネシリ火口及び中マチネシリ火口は確認できませんでしたが、北西斜面 06 噴気孔列の状況に特段の変化は認められませんでした。

・ 地震活動 (図 2、図 5、表 1)

24~29 日にかけて振幅の小さな火山性地震がやや増加しましたが、そのほかは 1 日あたり 10 回以下で推移しました。火山性地震は、2007 年 1 月以降一時的にやや増加する活動を繰り返しながら推移しています。

火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動 (図 6、図 7)

GPS 連続観測では火山活動によると考えられる変動は観測されませんでした。

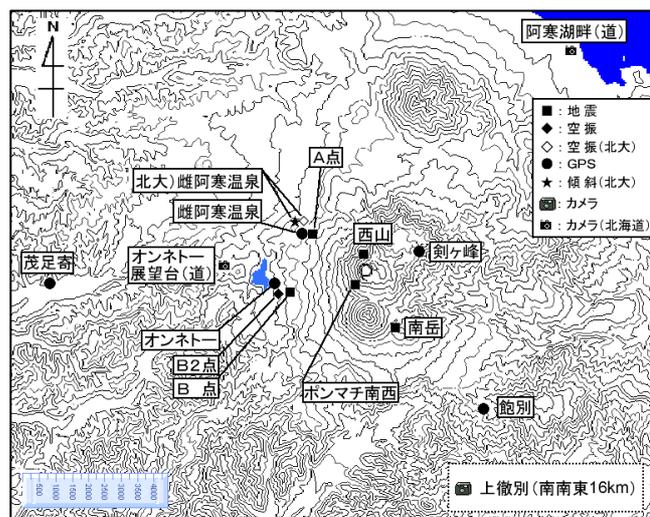


図 1 雌阿寒岳火山観測点配置図

※資料は気象庁のほか、北海道、北海道立地質研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用しています (承認番号 平 17 総使、第 503 号)。

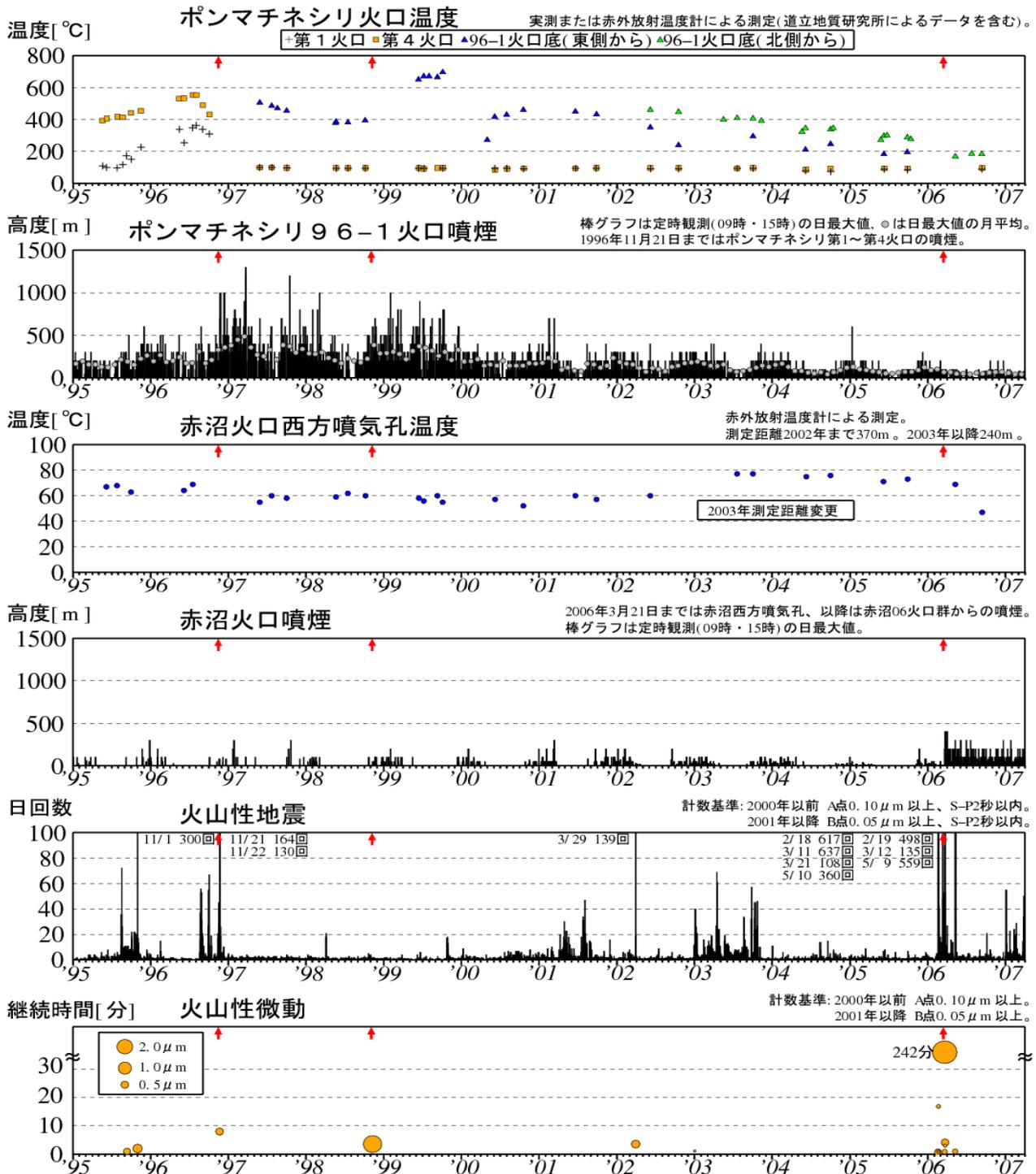


図 2※ 雌阿寒岳 最近の火山活動経過図 (1995 年 1 月～2007 年 3 月) ↑印は噴火

(1996 年、1998 年：ポンマチネシリ 96-1 火口からの噴火、2006 年：赤沼火口からの噴火)

- ・ポンマチネシリ 96-1 火口の熱活動、噴煙活動は 2000 年以降徐々に低下し、その傾向は 2003 年以降明瞭になっています。2006 年 3 月の小噴火後もこの状況に変化は見られていません。
- ・赤沼 06 火口群の噴煙活動は、2006 年 3 月の小噴火後は活発な状況でしたが、その後活動は次第に低下し、最近では静穏な状況で推移しています。
- ・地震活動は 2006 年 3 月の小噴火前は活発な状況で推移していました。小噴火後は、5 月に一時的に多発したほかは少ない状態で経過していましたが、2007 年 1 月以降一時的にやや増加する活動を繰り返しています。

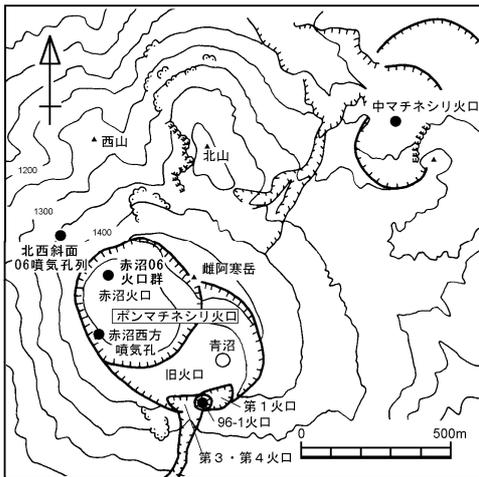


図3 雌阿寒岳 火口周辺図



図4 雌阿寒岳 北西斜面06噴気孔列の状況
(2007年3月1日、西側上空より撮影)

表1 雌阿寒岳 地震・微動の月回数 (B点: 図5のMEAB)

2006~2007年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地震回数	128	986	34	34	23	42	79	16	20	195	228	213
微動回数	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

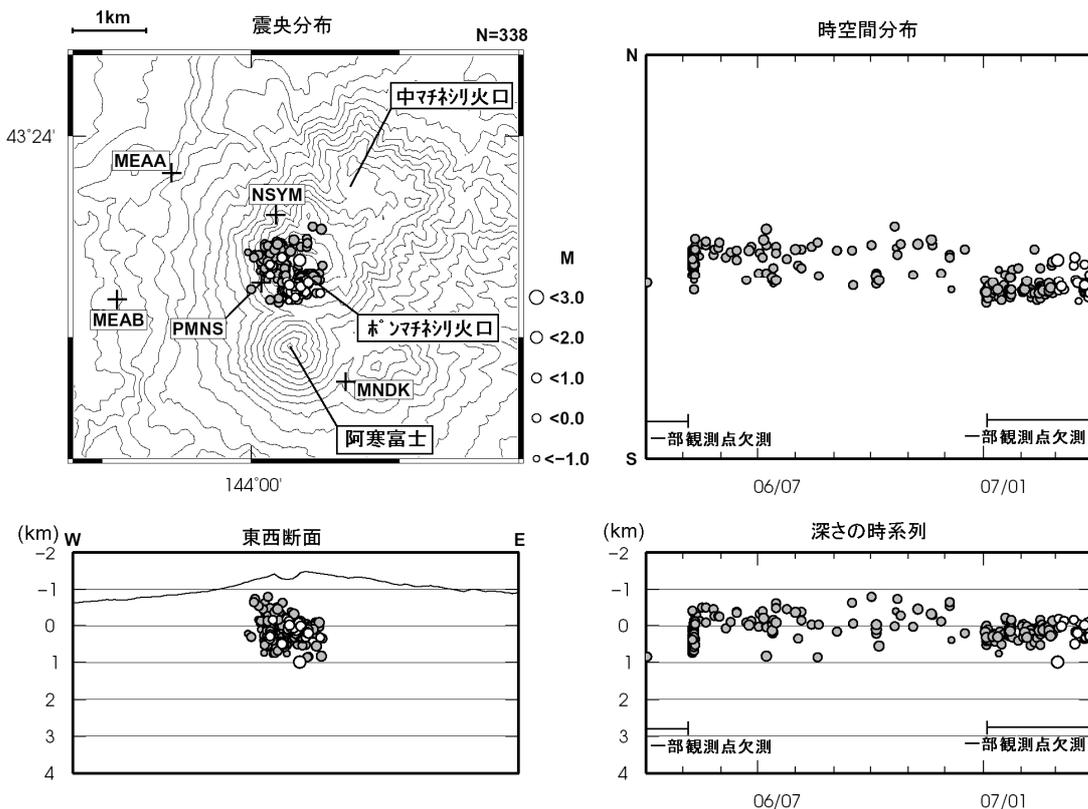


図5 雌阿寒岳 震源分布図(2006年4月1日~2007年3月31日、+は地震観測点)
2007年1月3日以降、一部観測点欠測のため震源決定能力が低下しています。
○印は今期間(2007年3月)の震源
●印は前期間までの11ヶ月間(2006年4月~2007年2月)の震源

- ・前期間までの震源の多くは、ボンマチネシリ火口直下の浅い所(山頂から深さ1~3km付近)に分布しています。今期間に求まった震源もおおむねこの領域内に分布しています。

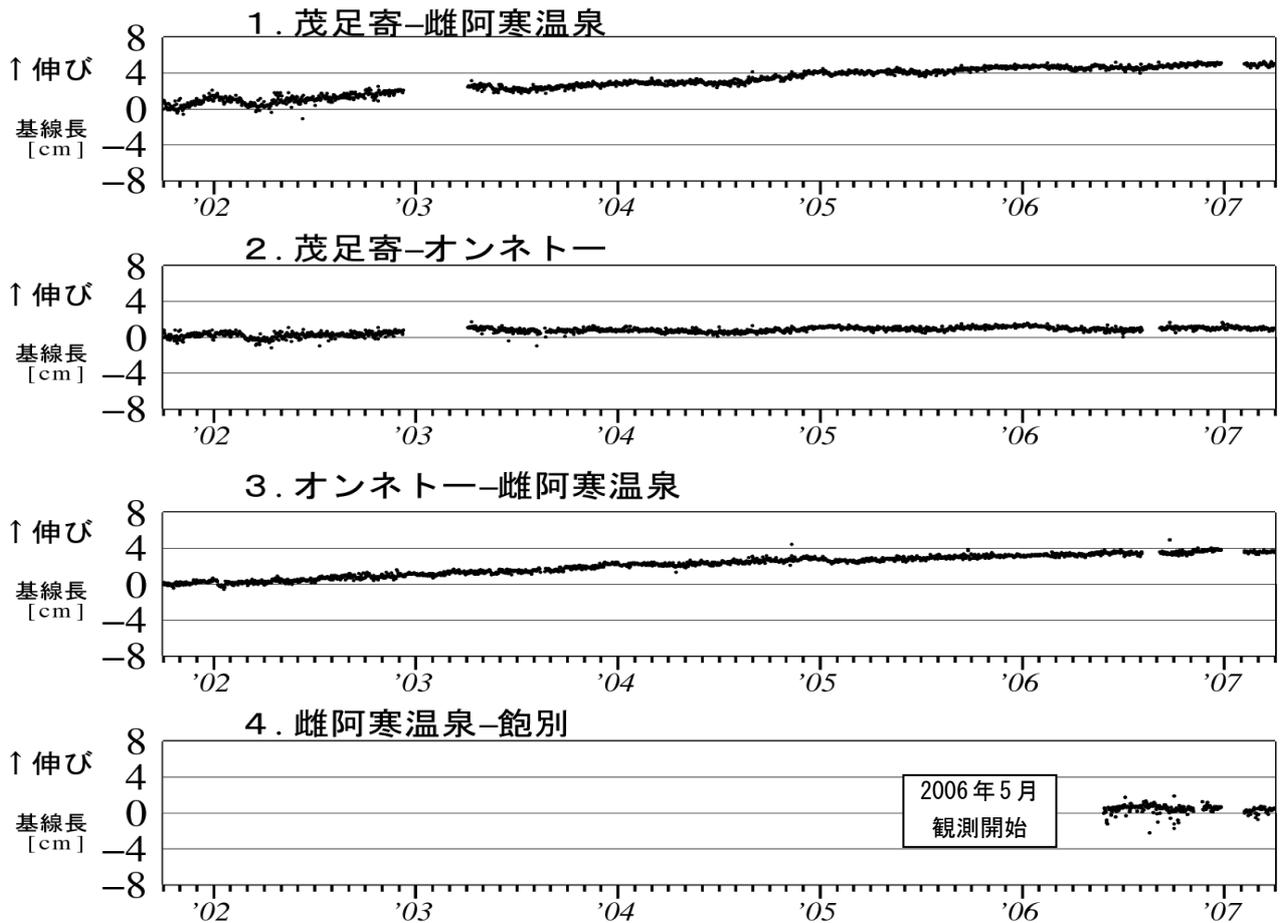


図 6 雌阿寒岳 GPS 連続観測による基線長変化 (2001 年 10 月～2007 年 3 月)
 グラフの空白部分は欠測
 図 6 の 1～4 は、図 7 の GPS 基線①～④に対応しています。

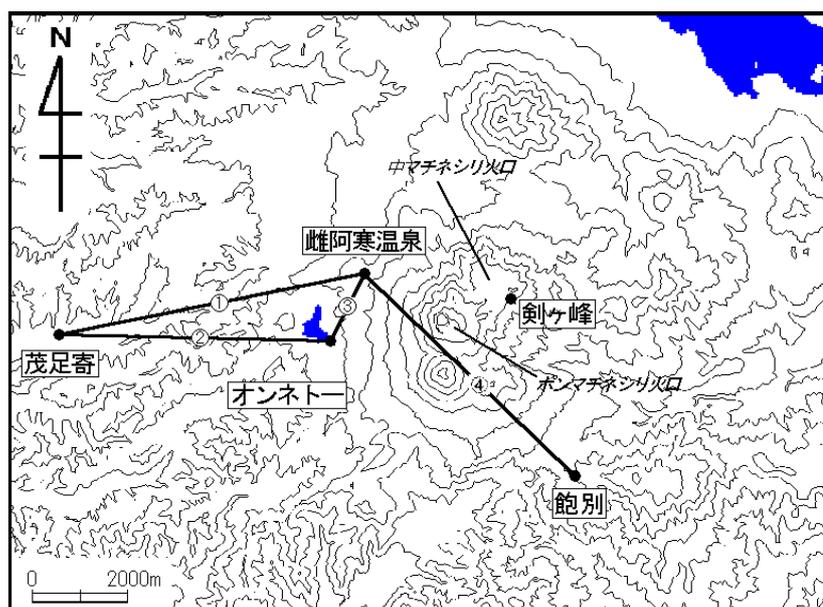


図 7 雌阿寒岳 GPS 連続観測点配置図